

IEC Report

No.12 October 2004

愛媛大学大学教育総合センター
Ehime University
Integrated Education Center

目次

- ・ インタビュー.....「とりあえず、やってみよう」 (1)
- ・ センターニュース「特色ある大学教育支援プログラム」他 (3)
- ・ センター運営委員会の動き..... (5)
- ・ センター日誌..... (6)
- ・ 授業のティップス.....「OHPの効果的な使用方法は」 (7)
- ・ 授業に役立つ工具箱.....「スタディスキルズを教える方法」 (8)

インタビュー

「とりあえず、やってみよう」

大学教育総合センター教育システム開発部

講師 佐藤 浩章

(新人採用研修：聞き手 教育学生支援部入試課 中塚俊郎)

- はじめに、「教育」というものに興味をもたれた「きっかけ」を教えてください。

私自身、父親が転勤族でしたから、多くの学校を経験してきました。小学校で2校、中学校で3校、管理主義の高校への入学と中退、中学浪人生活を経てリベラルな高校との出会い。小中高時代に様々な学校を見てきて、様々な教員に出会い、様々な学校風土を肌で感じることができました。この原体験の中で、教育現場での矛盾や問題点を見る機会がたくさんありまして、もっと勉強してみたいと思うようになりました。

- 学校教員を目指す方も多いとは思いますが、教育制度研究という道に進もうと決めた人生のターニングポイントについてお聞かせください。

高校の教員になりたいと思い、教育学部に入りました。教育学部に入っているいろいろな勉強すればするほど、教育の問題は個々の教員が熱血教師となって努力して何とかなる場合もあるけれども、何とかならない場合の方が多いことに気づきました。私は高校の制度に矛盾を感じていましたので、高校に焦点を絞り、社会の中で学校や教育はどう位置づけられて



いるのかを研究していました。日本の教育は偏差値重視であるといわれていますが、大学がそうした入試制度をもっています。大学にも問題があるというところまで研究で実証してきました。その頃、愛媛大学で大学の教育システムを変えていく新しい職を公募すると知りました。まさに私がやってきたことと関連します。モデルのない仕事ですが、教育システムに関わることは、とても魅力的な仕事だなと感じ、応募することを決めました。

- 本学の問題点とそれに対する取組・成果についてお願いします。

これまで大学教員は研究第一、その次に教育という位置づけをしていることが一般的でした。もちろん個人レベルで熱心な教員はたくさんいましたが、組織として教育に力を入れるようになったのは最近のことです。学生の成長及び育成は大学の大切な使

命です。そこを出発点にして、私たちは何をすればよいのかを考えたい。そういう視点から見て、気づいたことは、どんどん挑戦してきました。幸いにも愛媛大学内では、そのような議論が高まっていた時期でしたので、「そういうことがやりたかったんだ」と教職員の方々も共感していただきました。私はこれまで、数多くの大学教育の事例について見てきましたから、国内外の他大学の事例の紹介や、それを参考に本学向けに開発した教育プログラムの提案をしました。その内いくつかについては短期間で実現し、確実に根づいたものもあります。

私の仕事は基本的にコーディネーターであると考えています。私自身もちろん動きますが、それよりも問題を共有して、それを解決するためにチームを組み、取り組んでいただくことです。問題というのは、様々な要素が複合的に組み合わさっている場合が多くあります。複合的問題に対しては、それぞれの専門家が専門性を発揮しながら、チームとして取り組まないと解決しません。現在は、教職員に限らず学外の方々にも多数協力していただいています。

-平成16年度「特色ある大学支援プログラム」に「『お接待』の心に学ぶキャンパス・ボランティア」が採択されました。担当者として、自身の評価とキャンパス・ボランティアのこれからについてお聞かせください。

まず私はアクションを起こしてみようという人間です。お接待のプログラムについても非常に不安な面はありましたが、「とりあえず、やってみよう」ということで始めました。

このプログラムが採択されて良かったことの一つは、学生たちの取組が、文科省やマスコミを通じて全国から注目されたことにより、学生が大変自信を持ったということです。ボランティアは目立たない活動であり、原則謝金も単位もありませんので、途中で嫌になることが多いのです。新聞には相当回数取り上げていただきましたし、テレビやラジオでも放送されました。また松山市等の行政団体からも、各種イベントへの協力を依頼されています。他大学からの視察も多くあります。こうした機会を通して、学生は自分たちの活動を人前で説明する機会をさらに多く持つことになり、加速度的に成長していきます。

二つ目に良かったことは、本学の教職員の方々が、マスコミや他大学から愛媛大学の取組に対する評判を聞く機会が増えたことから、改めて教職員側がこのプログラムに対して理解を深めてくれていることです。これはチームとしてプログラムを進めるにあたって、とても重要なことです。

今後についてですが、あくまでボランティア、お接待とも共通する「自発性」を大切にしていきたいと考えています。ボランティアに参加する動機は、様々あってよいと思うし、その動機をたくさん増やしてあげたいのです。純粋にボランティアをやりたい、就職に有利だからやりたい、友達がいるからなど、様々な動機があります。それらの動機の価値付けをする必要はなく、理由はどうあれ、とりあえずやってみることが大切だと考えています。やっ进行中で、自分たちがやっていることとボランティアやお接待を重ね合わせられるようになってくれば、嬉しいですね。

- 学生にどんな人に育って欲しいですか。

シンプルに「お接待」の心をもった人になってほしいです。身近な人が困っているときに、ずっと手を差し延べられる、そして身近な問題に対して敏感で、それに対してアクションができる人になってほしい。世界の事や、日本の政治や社会のことについて、思考し、発言し、行動するのもいいけれど、まずはキャンパスのことだとか、家族や身近な友人のことだとか足許のことから始まって松山、愛媛、四国、……と発展させていく思考で、問題を一つ一つ解決して行ってほしいですね。そして口だけでなく、行動をして欲しいし、そういうマインドを持った人になって欲しい。そういう意図を持って、これからも学生を支援していきたいと思います。

さとう・ひろあき

大学教育総合センター教育システム開発部 講師、

経営情報分析室 (兼) 講師

1997年3月北海道大学大学院教育学研究科修士課程教育制度専攻修了、2002年3月北海道大学大学院教育学研究科博士課程教育計画講座単位取得退学

専門分野 高等教育、職業教育、比較教育、教育マネジメント

▼ 大学改革に関する教職員の皆さんの意見を掲載します。

平成16年度「特色ある大学教育支援プログラム」に採択されました

平成16年度「特色ある大学教育支援プログラム」に、愛媛大学の『お接待』の心に学ぶキャンパス・ボランティア」が採択されました。

「お接待」の心に学ぶキャンパス・ボランティアは、草の根的に行われてきた学生同士の支援活動のさらなる発展を大学として支援する教育取組みです。学びの支援、生活の支援、障害学生の支援、留学生の支援、高校生・新入生の支援活動を通して、学生相互の「教えあい、学びあい、助け合う」力を高めることを目的としています。

愛媛には、お遍路さんに対して地元の人々が無理をしない範囲で、食べ物や心づけを施す極めて日常的な「お接待」と呼ばれる文化があります。本取組はそれに学んだものであり、現在6つのグループが、キャンパス内で支援活動を日常的に行っています。

グループ	目的
愛媛大学学生メンターズ	大学と学生の橋渡し
国際交流コーディネーター	留学生と日本人学生の交流
メディア・サポーター	大学の広報活動の支援
火曜ナイトサロン実行委員会	松山から発信する文化を創る
ボランティアコーディネーター	ボランティア情報の提供
障害学生支援ボランティア	全ての学生のより良い学生生活

採択理由などの詳細は、大学教育総合センターのホームページに掲載しております。

<http://www.iec.ehime-u.ac.jp/iecweb/scv2/scv1.htm>

第5回愛媛大学教育ワークショップが実施されました

7月16日（金）・17日（土）、北条市スポーツセンターにおいて大学教育総合センター（以下 センター）主催で、第5回「愛媛大学教育ワークショップ」が実施され、本学教職員19名、及び県立医療技術大学教員2名が参加しました。

このワークショップは、授業をする際に必要な基本的な知識とスキルを提供することを目的とし、授業計画の立て方やシラバスの作成方法、成績評価の仕方などをテーマとした講義やグループワークが行



われました。

はじめにオリエンテーションとして、小松学長から愛媛大学のFDと新任教員への期待、高瀬副センター長から研修のねらいと共通教育の目的についての話がありました。

続いてのアイスブレイキングで、グループ名を付けたたり、簡単なゲームなどを行ないグループが打ち解けたところで、ワークショップが始まりました。

参加者は4グループに分かれ、「愛媛大学の学生の考える良い授業と悪い授業」を分析しました。

その後、「目標設定と授業計画・シラバスの作成」、「様々な授業方法」、「よりよい成績評価の仕方」などの講義を参考に、共通教育科目開発（目標設定、授業計画、シラバス作成、評価計画、指導案作成など）のためのグループワークを行いました。2日目には、各グループが「恋愛から人間を知る」、「死生学——他者の死と自己の死」、「恐竜絶滅の謎を探る」、「童話学の世界」をテーマにしたミニ授業を行いました。討議・検討では、「ディスカッションの前に、解答を先に言ってしまいがちではないか」、「ディスカッションで、とんでもない答えがでてきたときの対処法は?」、「授業では自分の経験から議論を始めるのも手だ」、「オフィスアワーは土・日に設定しても良いか」など活発な意見が飛び交いました。

閉会式では、各グループからグループ作業のまとめ（学んだことは何か?、どう実践に活かすか?）が発表され、前川センター長から参加者に修了証書が手渡されました。最後に高瀬副センター長から閉会の挨拶があり、本ワークショップは終了しました。

平成17年度共通教育授業計画立案作業が始まりました

9月21日(火) 共通教育実施委員会が開催され、平成17年度の授業計画立案作業が始まりました。

「愛媛大学中期計画・中期目標」では、平成18年度からの新カリキュラム導入がうたわれており、現行カリキュラム(ルネッサンスプラン)に基づくプランニングとしては、最後の作業になる可能性があります。毎年の恒例業務ですが、授業案の完成まで3ヶ月に及ぶロングランになります。関係する部会の先生方は本当にご苦労さまですが、よろしくお願いいたします。

なお、これに先立って、7～8月にかけて「主題別新企画科目」の担当募集を行いました。共通教育の質的向上に向けて、現行カリキュラムでは対応しきれないニーズに対し、有志の方の協力を得て、新構想の授業の可能性を探り、また双方向型授業の実践研究を目的とする企画です。たとえば今回は新たに、「文系学生対象のサイエンス体験科目」を計画したところ、5人の方の協力を得られました。初めての試みなので、問題点もあろうかと思われませんが、まずは試行して今後に向けた可能性を探っていきます。新企画科目の授業数は17年度は20コマ程度になる見通しです。

共通教育新カリキュラムの検討が本格的に再開されました

平成14年度から継続的に検討されてきた共通教育の新しいカリキュラムの検討作業は、本年度は教育改革推進委員会から共通教育企画委員会に場を移して審議されています。10月初旬時点では、大学教育総合センター運営委員会に素案が提起され、これを受けて各学部の教務委員長から構成される「新カリキュラム調整委員会」が設置され、今後は本委員会と企画委員会との意見交換を通じて審議が進められます。当面は新カリキュラムの構成に議論が集中することになりますが、学期制や成績評価、教員団のありかたなど、多くの課題について、調整が必要になります。

FDスキルアップ講座を開催 ～話し方からシラバスの書き方まで～



9月の毎週金曜日午後、本学では初めての試みとなるFDスキルアップ講座が開催され、全学ならびに県内他大学から述べ89名の教員が参加しました。これは、FDが大学に広まりつつある中で、従来型の全教員を対象とした啓発型FDから、個々のニーズに対応したピンポイントのFDへの変換が必要との認識から生まれたものです。下記にあるテーマの中から、各教員が自発的に伸ばしたいスキルに見合った研修に参加しました。本学の基礎体力の向上を目的に、学外からの講師を極力減らし、多くの講師を学内教員がつとめました。参加者のうち、医学部の割合が最も多く20%を占めました。県立医療技術大学、今治明德短期大学、松山東雲短期大学からの参加者もありました。さらに事務職員、大学院生の参加もありました。参加者のアンケートからは、参加者全体の88%が役に立ったと答えました。また参加者が今後望む内容としては「成績評価の仕方」「授業のテクニック」「学生とのコミュニケーション」などがあげられました。自由記入欄には「年に一度だと参加できない事もあるので複数回実施してほしい」「なるべく多くの教員が参加すべき」との意見もあり、システム開発部では機会の拡大の方向で検討をすすめたいと考えています。

■開講講座一覧

・ビジュアル教材作成法(講座番号201A)

場所: 総合情報メディアセンター

日時: 9/3(金) 13時～15時

講師: 二神透(総合情報メディアセンター)

- ・講義法の基本（講座番号 201B）

場所：共通教育北別館 22 番教室

日時：9/3（金）15 時 30 分～17 時 30 分

講師：小林直人（医学部）

- ・E-ラーニング教材作成方法（講座番号 201C）

場所：総合情報メディアセンター

日時：9/10（金）13 時～15 時

講師：平田浩一（総合情報メディアセンター）

- ・多肢選択テスト作成法（講座番号 201D）

場所：共通教育北別館 22 番教室

日時：9/10（金）15 時 30 分～17 時 30 分

講師：小林直人（医学部）

- ・フィールドワーク型授業の作り方（講座番号 201E）

場所：共通教育北別館 22 番教室

日時：9/17（金）13 時～15 時

講師：野本ひさ（医学部）

- ・より良いシラバスの書き方（講座番号 201F）

場所：共通教育北別館 22 番教室

日時：9/17（金）15 時 30 分～17 時 30 分

講師：佐藤浩章（大学教育総合センター）

- ・教員のための話し方入門（講座番号 201G）

場所：共通教育北別館 22 番教室

日時：9/24（金）13 時～15 時

講師：佐藤龍子（静岡大学大学教育センター）

- ・スタディスキルズの教え方（講座番号 201H）

場所：共通教育北別館 22 番教室

日時：9/24（金）15 時 30 分～17 時 30 分

講師：佐藤浩章（大学教育総合センター）

長崎大学の初年次教育に学ぶ ～FDSD セミナーを開催～



10月15日に、長崎大学大学教育機能開発センターの井出弘人講師を迎え、FDSD セミナー「長崎大学における初年次教育の取組～大学に入ったばかりの1回生に効果的な教育とは何か？～」が開催され、学内外の参加者約20名が熱心に聞き入り、討論に参加しました。

長崎大学では平成9（1997）年度の教養部改組に相前後して、種々の特色ある初年次教育カリキュラムを創設し大きな成果をあげてきました。平成15年度にはその実績が評価され「特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）」に採択されています。長崎大学では、各学部からの新入生を均等に割り振り、クラスを作る少人数のセミナーが実施されていますがその実態についての説明や、工業高校生を対象とした補習クラスの説明がなされました。中でも、教員研修、授業参観、データ分析、検討会といった一連の PDCA サイクルを確立しようとしている点が大変参考になりました。

センター運営委員会の動き

▼ 大学教育総合センター運営委員会の中から主要な審議、決定事項を抜粋してお伝えします。（6/7/8/9 月期）

◆第4回（6月16日開催）◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ （審議事項）

1 大学教育総合センター共通教育企画・実施部に

関する内規の一部改正

2 大学教育総合センター教育システム開発部に関する内規の一部改正について

3 平成16年度大学教育総合センターにおける各種委員会等の構成について

4 平成16年度授業改善のための期末アンケート

について

- 5 平成17年度共通教育科目以外の全学にわたる授業科目の検討について
- 6 愛媛大学教育・学生支援機構（仮称）について
- 7 授業科目の指定図書について

◆第5回（7月7日開催）◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆
（審議事項）

- 1 平成16年度現代的教育ニーズ取組支援プログラムについて
- 2 教育システム開発部に関する内規の一部改正について
- 3 平成16年度大学教育総合センターにおける各種委員会等の構成について
- 4 教育システム開発部の研究員について

◆第6回（7月21日開催）◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆
（審議事項）

- 1 平成16年度大学教育総合センター中期計画学部等固有の具体的事項について
- 2 平成17年度スーパーサイエンス特別コース入学者教育課程表
- 3 平成17年度共通教育授業時間割枠について

◆第7回（9月1日開催）◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆
（審議事項）

- 1 平成17年度入学生に適用する履修単位表について
- 2 平成17年度共通教育時間割枠について
- 3 平成17年度入学生に適用する共通教育授業科目表について
- 4 平成16年度共通教育非常勤講師の任用計画の変更について
- 5 平成17年度共通教育関係授業日程及び休講措置について
- 6 教育システム開発部に置く教育支援員について
- 7 共通教育「新カリキュラム」について

◆第8回（9月28日開催）◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆
（審議事項）

- 1 国立大学法人愛媛大学と愛媛県教育委員会との高大連携協力に関する協定書について
- 2 平成16年度後学期共通教育科目の科目等履修生の受入れについて
- 3 平成16年度後学期共通教育科目の聴講生の期間更新について
- 4 平成16年度共通教育非常勤講師の任用計画の変更について
- 5 平成16年度後学期共通教育科目の授業担当教員の変更について

センター日誌

6月

- 1日 広報小委員会
14日 第3回共通教育企画委員会
16日 第4回センター運営委員会
28日 第4回共通教育企画委員会

7月

- 7日 第5回センター運営委員会
12日 第5回共通教育企画委員会
14日 運営協議会
14日 FD委員会
16-17日 愛媛大学教育ワークショップ
21日 第6回センター運営委員会

8月

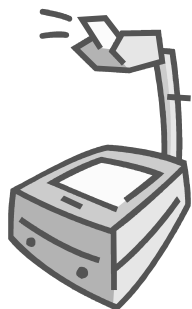
- 4日 第7回共通教育企画委員会
5-6日 オープンキャンパス
12日 第2回共通教育実施委員会
20日 第8回共通教育企画委員会
30日 予算小委員会

9月

- 1日 第7回センター運営委員会
6日 第9回共通教育企画委員会
17日 第1回新カリキュラム調整委員会
21日 第3回共通教育実施委員会
27日 第10回共通教育企画委員会
29日 第8回センター運営委員会

「OHPの効果的な使用法は？」

Q. 授業では、プレゼンテーションソフトではなく、OHPを利用することが多いのですが、学生から視聴覚機器の使い方が悪いとアンケートに書かれました。上手にOHPを使用する方法はありますか。



「特性を知って使用しましょう！」

A. 最近では、プレゼンテーションソフトを使用して、授業を行う教員が多くなってきましたが、これには①教室が暗くて学生の眠気を誘う、②学生がテレビや映画を観ている感覚になり単調となる、といったデメリットもあります。一方、OHP（オーバーヘッド・プロジェクター）は、伝統的な教育機器ではありますが下記のメリットがあります。①明るい場所でも使用できる。②黒板を使用すると同様に、授業中にその場で透明シートに記入することができ、学生がノートを取りやすい。③投影された画像が比較的鮮明で見やすい。④学生の方を見ながら、記入することができる。⑤プロジェクターのスイッチを入れたり切ったりすることで、授業が冗長になるのを避けることができる。もちろん、下記のデメリットもあります。①使用時に音が発生する。②プロジェクターのそばにいないといけない。以下では、複数の使用方法別のティップスについて説明します。

[準備段階] スクリーンや画像が学生に見えるかどうか、授業開始前に確認しましょう。文字が小さく読み取れないというコメントが多く見られます。大人数講義の中ではなかなか指摘しにくいようです。また授業中に電球が切れた場合の対応を考えておきましょう。共通教育の場合は、学期の初めに職員が点検をしています。また講義棟に設置されている内線電話を使えば、電球を持参してくれます。予備用の電球がOHPには常備されていますが、**交換方法を確認**しておくのもよいでしょう。

[準備したシートを話の展開に合わせて使う] 提示する順番を間違わないように整理しておきます。すでに準備したシートにも、赤で波線をつけて強調するなどすると臨場感が出て学生の集中力を高めます。また複数のシートを重ねることで、グラフの変化、植物の成長過程、建造物の構造などをわかりやすく説明することもできます。

[黒板代わりに使う] 基本は黒色のペンで書きましょう。ただし興味をひき付け、強調するためには、赤や青を使うと効果的です。1枚のフィルムにたくさんの情報を書き込むのは、避けましょう。学生が情報を整理しやすいように、記入していきます。

[資料提示用として使う] 関連のある新聞記事や漫画、絵画などを提示することができます。あまり大量の資料を提示すると学生は混乱しますので、90分では15枚から20枚程度にします。

[ノートを取る時間を確保する] 提示したり、書き込んだりした後は、学生がノートを取る時間をしっかり取りましょう。学生の様子を見て次のシートに移るようにします。また事前に記入してあるシートの場合は、提示した後少し時間をおいてから話始めると良いでしょう。授業時間中に書き取れなかった学生のために、研究室のドアにOHPシートのコピーを掲示しておき、研究室に来やすく誘導するという方法もあります。

[隠しながら提示していく] 提示する際は、一度に全て見せずに、最初の話の部分以外を不透明な紙で覆い隠します。学生は、覆いのない部分に集中でき、情報を少しずつ整理しながら、記憶していくことができます。

参考文献：『授業の道工具箱』（バーバラ・グロス・デイビス 東海大学出版会 2002年 2800円 pp.389-395）

スタディ・スキルズを教える方法 学習技術研究会編著『知へのステップ』

(くろしお出版 ¥1,900 2002年)



スタディ・スキルズ(学習技術)を教える教材は数多くあれども、それらの多くは学生の自習用テキストの形態をとっています。ところが、スタディ・スキルズが欠けている学生は、そのテキストすら読もうとしないという矛盾がここにはあります。やはり、スタディ・スキルズを自学させるのは困難であり、本学の「基礎セミナー」等の時間を使って教えていくことが必要でしょう。本書は、大学における初年次教育のテキストとして、「教室で使用されることを想定して編集された」ものです。授業で使用することを想定し、半期12回の項目に分かれており、1回の授業が一つの章に相当する「一話完結型」になっています。さらにテキストにワークシートも収容されているので、授業でコピーして使用することもできます。この種のテキストとしては、非常に使いやすい、無駄のないつくりとなっています。

●章立ては下記のとおりです。

- 第1章スタディスキルズとは
- 第2章ノートテイキング
- 第3章リーディングの基本スキル
- 第4章より深いリーディングのために
- 第5章大学図書館における情報収集
- 第6章インターネットによる情報収集
- 第7章情報の整理
- 第8章アカデミックライティングの基本スキル

第9章効果的なアカデミックライティングのために
第10章パソコンによるライティングスキル
第11章プレゼンテーションの基本スキル
第12章わかりやすいプレゼンテーションのために

「第2章ノートテイキング」の小項目は下記のようになっています。

- 2.1 ノートテイキングのスキル
 - 2.1.1 ノートをとることメモをとること
 - 2.1.2 講義スタイルに応じたノートテイキング
 - 2.1.3 なぜ、ノートをとるのか
- 2.2 講義ノートをとる
 - 2.2.1 講義前にできること
 - 2.2.2 講義中にできること
 - 2.2.3 要点を聴き取るコツ
 - 2.2.4 講義後にできること
 - 2.2.5 講義ノートの完成——ファイリングと目次
- 2.3 ノートテイキングの実際
 - 2.3.1 講義風景—ある社会心理学の授業から
 - 2.3.2 講義を立体的に捉える

またプレゼンテーションソフトに対応したCD-ROMが付属されており、教員が授業ですぐに使用できるように準備されています。

本書で紹介されるスタディ・スキルズは、文系、理系問わずに必要とされる一般的なものに限定されていますので、各学部、学科に固有のスキルズについては、補充して教える必要があるでしょう。

■■■IECレポートNo12■■■

愛媛大学大学教育総合センター広報誌

発行日：2004年10月1日

発行元：愛媛大学大学教育総合センター

〒790-8577 松山市文京町3番

TEL 089-927-8904 (代表) FAX 089-927-8915

<http://www.iec.ehime-u.ac.jp/ieccweb/index.html>

編集者：愛媛大学大学教育総合センター広報小委員会

松久勝利・折本素

井上敏憲・◎佐藤浩章

内容に関する意見・要望・お問い合わせは、◎印の委員まで
お願いします。sato@iec.ehime-u.ac.jp 内線 8346